

2016 年度日本建築学会北海道支部技術賞 受賞者一覧

◆北海道支部技術賞

株式会社日建設計

長瀬 悟君

元株式会社日建設計

山脇 克彦君

株式会社北海道日建設計

長渕 恒夫君

小谷 卓司君

清水建設株式会社

梶波 信一君

秋山 稔君

安富 彩子君

齊藤 穰君

表彰技術名「トンネル工法と免震性能最大化設計による地上無補強完全使いながら免震レトロフィット技術の開発と実現」

(3) 審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第 7 条第 2 項に基づいて、支部長の出席の下、支部技術賞選考部会を構成する委員の確認をし、選考部会は計 2 回開催した。

初回の技術賞選考部会では、応募のあった下記 1 件の内容について協議した。

応募された技術等の名称：「トンネル工法と免震性能最大化設計による地上無補強完全使いながら免震レトロフィット技術の開発と実現」

募集要領の選考基準には「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の 3 つの観点に基づき技術内容を把握した。

応募のあった技術は、築 40 年超の耐震性の低い建物の機能を維持しながら耐震改修を行う必要性が背景にあり、建物直下の支持地盤をトンネル状に掘削し、そこから免震化を行うという建物を使いながらの免震レトロフィットの実現である。

選考部会では、技術の内容に関し応募者に質問文書にて確認し、議論そして投票の結果、技術賞表彰候補とした。

上部構造の耐震補強を不要にする適度な免震設計と、建物下に掘削したトンネルを利用して段階的に基礎梁の補強とマットスラブの新設を進める新工法を組み合わせることで、建物利用を阻害しない耐震補強工事を実現した。地盤と既存建物の特性を綿密に分析した結果として編み出された工法は、免震レトロフィット技術の発展に寄与する、有効な新しい技術である。それは場所と建築の本来のあり方を求めたもので、札幌都心の地盤条件を利用した「地域性・独自性」、類似例が非常に限られるという「有効性・新規性」から高く評価された。

技術賞選考部会より、技術賞表彰候補として支部役員会に報告し、審議の結果、2016年度日本建築学会北海道支部技術賞に決まった。

(文責：佐藤 孝)